

平成25年度
運営諮問会議報告書

(ホームページ公開用抜粋版)

平成26年6月



革新する技術、創造する未来 ～夢へ翔る熊本高専～

熊本高等専門学校

Kumamoto National College of Technology

ま え が き

経済再生と教育再生は、政府の最重要政策の2本の柱となっています。平成25年6月の産業競争力会議では、日本産業再興プランが策定されましたが、経済のグローバル化や少子・高齢化の中で、今後、経済を新たな成長軌道に乗せるためには、人材こそが我が国の最大の資源であるという認識に立って、多岐にわたる方針が示されました。その中で、高等専門学校について、地域や産業界との連携を深めつつ、社会や企業のニーズを踏まえた学科再編などを促進するとされています。実際、少子化と財政難は地域の経済構造改革を迫っており、全国の高専には人口減少の厳しい現実を踏まえた「集約化」と「活性化」が求められています。本校の高度化再編は、現在のこのような要請を先取りする形で、これに応えているものでもあります。

本年度末に熊本電波高専および八代高専に入学した学科生が卒業し、平成26年4月には本科1年生から5年生までが再編高度化された熊本高専に入学した学生となります。

高度化再編の理念である「専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成と、科学技術による地域社会への貢献」に向けて、教職員一同一丸となって努力して参りました。

一方、社会の状況は時々刻々変化します。一時的な風潮に左右されることがあってはなりません。確固たる理念を実現するためには、教育研究のシステムも常に進化していかなければなりません。そのため本校では、教育改善プロジェクトを立ち上げています。今回の諮問会議では、熊本高専における学生生活の現状と人間力を養うためのアクションプランについて御報告申し上げ、ご指導を頂戴することといたしました。

本年度の運営諮問会議は、熊本高専になって4回目となります。2つのキャンパスで交互に開催しており、今回は八代キャンパスで開催することになりました。

委員の皆様にはお忙しい中ご出席賜り、長時間熱心にご審議いただきました。心よりお礼申し上げます。地域の各界のリーダーであられる委員の皆様から頂きましたご指摘ご助言は、本校の運営に活かして参る所存です。今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成26年3月

熊本高等専門学校長 長谷川 勉

目 次

まえがき

1. 熊本高等専門学校運営諮問会議委員名簿	1
2. 熊本高等専門学校運営諮問会議規則	2
3. 日程等	4
4. 出席者名簿	5
5. 平成24年度の提言等に対する改善に向けた対応	7
6. 平成25年度運営諮問会議でのご意見等の要旨	13
7. 平成25年度運営諮問会議における提言事項	17
8. 話題提供資料	
テーマ「熊本高専における学生生活指導の現状と人間力を養う ためのアクションプラン」について	18

1. 熊本高等専門学校運営諮問会議委員名簿

任期：平成25年10月1日から平成27年3月31日まで

会長

村山伸樹 国立大学法人熊本大学工学部長

委員

足立國功	熊本県工業連合会会長
荒木義行	合志市長
亀田英雄	熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会長
櫻井一郎	櫻井精技株式会社代表取締役社長
中村博生	八代市長
平田雄一郎	平田機工株式会社代表取締役社長
松下純一郎	熊本日日新聞社編集局長
松村民雄	熊本電波工業高等専門学校同窓会長
村上敏晴	熊本県中学校校長会会長
森永政英	熊本県商工観光労働部商工労働局長

(委員氏名は五十音順で記載)

2. 熊本高等専門学校運営諮問会議規則

平成23年5月17日制定

(趣旨)

第1条 この規則は、熊本高等専門学校内部組織規則第9条第2項の規定に基づき、熊本高等専門学校運営諮問会議（以下「諮問会議」という。）に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 諮問会議は、熊本高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究活動等の状況について評価及び助言等の提言を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 諮問会議は、次に掲げる事項について、校長の諮問に応じて評価等を実施するものとする。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の運営に関する事項

(組織)

第4条 諮問会議は、本校の職員以外の者で次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 大学等高等教育機関の関係者
- (2) 本校の所在する地方自治体の関係者
- (3) 本校の所在する地域の教育関係者
- (4) 本校の所在する産業・経済界の関係者
- (5) 報道機関の有識者
- (6) 本校を卒業又は修了した者
- (7) その他高等専門学校に関して広くかつ高い識見を有する者

(委嘱)

第5条 委員は、校長が委嘱する。

(任期)

第6条 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第7条 諮問会議に、会長を置き、校長が指名する者をもって充てる。

- 2 会長は、諮問会議を招集し、その議長となる。
- 3 会長に事故があるときは、校長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第8条 会長が必要と認める場合は、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(開催)

第9条 諮問会議の開催は、原則として年1回とし、開催場所は熊本キャンパスと八代キャンパスにおいて交互に開催する。

(事務)

第10条 諮問会議の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、諮問会議の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年5月17日から施行する。
- 2 この規則施行後最初に委嘱される第4条の委員の任期は、第6条の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

3. 日 程 等

日 時 : 平成25年11月12日(火)

会 場 : 熊本高等専門学校 八代キャンパス (管理棟2階 大会議室)

次 第

- 13:30～14:00 受付
- 14:00～14:10 開会 (校長挨拶)、日程説明、出席者の紹介等
- 14:10～14:20 前年度提言等に対する改善に向けた対応について
- 14:20～15:50 話題提供・協議
【テーマ】「熊本高専における学生生活指導の現状
と人間力を養うためのアクションプラン」
【説明者】齊藤郁雄 (八代キャンパス副校長)
- 15:50～16:00 その他意見交換等
- 16:00 閉会 (校長謝辞)

4. 出席者名簿

【出席委員】

会長（議長）

村山伸樹（国立大学法人熊本大学工学部長）

委員

足立國功（熊本県工業連合会会長）

江崎一成（熊本県中学校校長会副会長）

※村上敏晴 委員（熊本県中学校校長会会長）の代理

亀田英雄（熊本高等専門学校八代キャンパス同窓会長）

櫻井一郎（櫻井精技株式会社代表取締役社長）

中村博生（八代市長）

松下純一郎（熊本日日新聞社編集局長）

松村民雄（熊本電波工業高等専門学校同窓会長）

森永政英（熊本県商工観光労働部商工労働局長）

（委員氏名は五十音順で記載）

【学校関係者】

長谷川 勉（校長）

齊藤郁雄（副校長・八代）

下塩義文（副校長・熊本）

淵田邦彦（教務主事・八代）

古江研也（教務主事・熊本）

四宮一郎（学生主事・八代）

大石信弘（学生主事・熊本）

五十川 読（寮務主事・八代）

光永武志（寮務主事・熊本）

小田明範（総務主事・八代）

永田正伸（総務主事・熊本）

米沢徹也（ICT活用学習支援センター長）

小松一男（ICT活用学習支援センター副センター長）

清田公保（地域イノベーションセンター長）

田中禎一（地域イノベーションセンター副センター長）

小田川裕之（PBL・総合教育センター長）

上土井幸喜（PBL・総合教育センター副センター長）

久保田 智（共通教育科長・八代）

八田茂樹（共通教育科長・熊本）

中 村 裕 一	(建築社会デザイン工学科長／土木建築工学科長)
木 幡 進	(生物化学システム工学科長／生物工学科長)
池 田 直 光	(情報電子工学科長)
松 田 豊 稔	(情報通信エレクトロニクス工学科長 ／教育改善プロジェクト WG(熊本) 座長)
大 塚 弘 文	(制御情報システム工学科長／電子制御工学科長)
大 田 一 郎	(情報通信工学科長)
伊 山 義 忠	(電子工学科長)
村 上 純	(情報工学科長)
木 場 信一郎	(生産システム工学専攻長／専攻科長)
三 好 正 純	(電子情報システム工学専攻長)
西 山 英 治	(自己点検評価委員会委員長)
種 村 公 平	(自己点検評価委員会副委員長)
下 田 貞 幸	(教育改善プロジェクト WG(八代) 委員／教務主事補)
村 山 浩 一	(教育改善プロジェクト WG(八代) 委員／教務主事補)
古 嶋 薫	(教育改善プロジェクト WG(八代) 委員／学生主事補)
大河内 康 正	(教育改善プロジェクト WG(八代) 委員)
濱 田 さやか	(教育改善プロジェクト WG(八代) 委員)
柴 里 弘 毅	(教育改善プロジェクト WG(熊本) 委員／教務主事補)
縄 田 俊 則	(教育改善プロジェクト WG(熊本) 委員／学生主事補)
高 倉 健一郎	(教務主事補・熊本)
永 田 和 生	(教務主事補・熊本)
小 林 幸 人	(共通教育科・八代 教授)
井 山 裕 文	(寮務主事補・八代)
中 島 晃	(寮務主事補・八代)
米 澤 宏	(事務部長)
小 枝 義 則	(総務課長)
大 平 和 美	(管理課長)
前 田 俊 哉	(学務課長)
高 嶋 重 俊	(学生課長)

5. 前年度の提言等に対する改善に向けた対応について

(資料の概要説明)

次頁に示します「平成24年度運営諮問会議での提言等に対する改善に向けた対応」は、前回の運営諮問会議（平成24年11月27日開催）において、本校の教育研究活動等に対する各委員の方からの貴重なご意見等を、本校自己点検評価委員会が同会議議事録から提言等として抽出後、それを関係する委員会等へ改善に向けた対応の方策について検討を依頼し、得られた結果です。

この改善に向けた対応は、両キャンパスの運営会議に報告し、学校全体で取り組む課題として共通認識され、今後も引き続き改善に取り組んでいくことにしています。

改善に向けた対応は、以下に示すとおり、既に改善が実施されているものから改善には今後十分な検討を要するものまで、4つの対応区分で分類しています。

- 対応区分
- A=改善に向けた対応を、実施しているもの
 - B=改善に向けた対応を、直ちに行う必要があるもの
 - C=改善に向けた対応を、将来的に行う必要があるもの
 - D=改善に向けた対応には、十分な検討が必要なもの

今回抽出した7項目の提言等は、それぞれを以下の事項について整理しています。

【提言等事項】

委員の方からのご意見等を、自己点検評価委員会で提言等として要約したものです。

【議事録抜粋】

運営諮問会議の議事要録から、提言等事項に該当する委員の方からのご意見等の部分を抜粋したものです。

【対応区分】

提言等の現状確認を行い、対応の進展状況を、上記の4つの区分で分類したものです。

【改善に向けた対応】

提言等に対する具体的な改善方策を取りまとめたものです。

平成24年度運営諮問会議での提言等に対する改善に向けた対応

- 対応区分 : A=改善に向けた対応を、実施しているもの
B=改善に向けた対応を、直ちに行う必要があるもの
C=改善に向けた対応を、将来的に行う必要があるもの
D=改善に向けた対応には、十分な検討が必要なもの

No.1

【提言等事項】

「提言：目標を定めた資格の取得」

学年の進行に応じて学習の目標となる適切な資格などを取得させるようにしてほしい。

【議事録抜粋】

5年間というのは非常に長い中でダレるという部分で、やっぱり、2年、3年、4年ぐらいの年次の時に、何か目標、英会話の資格を取らせるとか、技術的な何かライセンスを取らせるとか、そういうハードルを設けて、毎年、毎年、何か目標を持たせて、教育をしていただくといいんじゃないかなと思います。

【対応区分】

A

【提言等に対する改善に向けた対応】

種々の資格取得に対しては、カリキュラム上で単位認定することが可能であり、また、難しい資格を取得した学生を表彰する制度を設け、資格取得の取り組みを学校として奨励しています。

なお、学年に応じて取得可能な資格が多数あり、目標を立てて資格取得にチャレンジする学生がいることから、ご指摘の一部は達成していると考えます。

No.2

【提言等事項】

「提言：教養と哲学の教育」

コミュニケーション能力を身につけるためには教養と哲学をしっかり教える必要がある。

【議事録抜粋】

私が思いますのは、高専で一番問題でありながら、一番アドバンテージがあると思うのは、中学校を出てから専門教育をされるんですが、結局、コミュニケーション能力というと英語という話になるんですが、そんなことはなくて、発言すべきものがないんだと思うんですよ。

もっと具体的に言いますと、昔ありました教養が無くなっている。高校の時から専門をやってしまうというのが、高専の1つ問題かなと思うんですが、逆に言うと5年間ありますから、やりようによってはきちんと教養を教えていける5年という時間をお持ちですから、そ

う思ってカリキュラムを組まれたほうが、やっぱり哲学を教えないとコミュニケーションができません。特に、海外の人たちと話す時は、英語力ではなくて、何を話すかのほうが大事ですので、やはり哲学がないと黙ってしまうんだらうと思います。特に今の若い人たちは傷つくのを非常に怖がりますから、哲学を教えるというのも1つじゃないでしょうか。

【対応区分】

A

【提言等に対する改善に向けた対応】

高専の教育カリキュラムでは、教養科目に相当する共通教育科目と専門科目が相互に混合した、いわゆるクサビ型の教育カリキュラム構成をとっており、共通教育科目と専門科目の割合は学年が進むほど専門科目の比率が高まる構成となっています。なお、3年次までは共通教育科目が半分以上を占め、普通高校に近い内容の教育を行っています。

4年及び5年では、哲学等の教養科目も教育カリキュラムに含めて実施しており、また、コミュニケーション能力の育成には、教養科目以外にもグループの一員として協調して作業することや、自身の考えを発表する訓練も必要であることから、様々な科目で取組みを行っています。

平成25年度九州沖縄地区国立高専教員研修集会のテーマは「技術者育成における一般教養教育の重要性について」であり、他高専の事例を参考にしつつ、さらなるレベルアップを図りたいと考えています。

No.3

【提言等事項】

「提言：社会的常識である教育」

社会的常識である挨拶などの教育を十分に行ってほしい。

【議事録抜粋】

結構有名な大学を出てきた新入社員でもプレゼンができないというのと、社会の常識が欠けているような若い人が最近特に多いと思われまますので、そういう意味からいうと、30何年も前ですと、上下関係の厳しい寮では、挨拶から始まってというような部分で、そこで随分社会に出て役立つようなことをいっぱい学んだ部分がありますので、そういう部分の教育も十二分に行なって欲しいと思います。

【対応区分】

A

【提言等に対する改善に向けた対応】

大学教育と比較して見落とされがちなこと、高専の授業始め・終わりでの挨拶がありません。義務教育及び高校では普通のことですが、19/20歳の学生（4/5年生）が、授業の前後で挨拶することは、高等教育機関ではとても珍しいことです。

また、学生会が率先して「あいさつ運動」を年3回実施しており、これらを通して、TPO

に応じて相手に合わせた挨拶の重要性を学生が十分認識し、実施していると考えます。

それと同時に、挨拶を含めたコミュニケーション能力が社会で活躍するためにはとても重要だと考えています。そのため、コミュニケーション能力及びビジネスマナーを含めたキャリア教育を1年生のうちから実施しています。

No. 4

【提言等事項】

「提言：県内地域企業への学生の就職」

地域の企業に学生を就職させることが一番の地域貢献であるので地元に残してほしい。

【議事録抜粋】

地域貢献なんですけど、やはり一番の地域貢献は、この優秀な実践技術者が地元に残ることだと思います。ですから、やはり、1つの目標というのはなかなか難しいんですが、やはり、就職先が県内であるかどうかというデータを公表していただいて、先生たちに少しプレッシャーをかけていただき、やはり、子どもたちが熊本に残るとというのが私は一番の地域貢献だと本当に思っております。もちろん、それに相応しい企業がないと言われればそうなんですけど、是非、そこはなんか目標にさせていただければいいのかなと思います。

【対応区分】

A

【改善に向けた対応】

就職先の企業名及び地域別統計などについては、例年「熊本高专だより」などに公表し、キャンパスの教員、学生及び保護者に周知しています。

昨年度の場合、県内企業へ就職した学生の割合は、全就職学生の9%（本科）及び31%（専攻科）でした。ここ5年間だと、本科では9%から18%の範囲で推移していますが、専攻科では年度によって大きく異なっています。就職先はその時の経済状況に大きく左右されているのが現状です。

なお、学生にとって地域企業の知名度が低いため、少しでも地域企業になじんでもらえるようインターンシップの受け入れや企業説明会、キャリア教育関連の講演会での講師を地域の企業の方にもご協力いただいているところです。

より多くの卒業生（修了生）が地域の企業に就職し、世界で活躍できるようになってほしいと考えます。

No. 5

【提言等事項】

「提言：広報の推進」

研究・教育などすぐれた業績を残しても、その成果をきちんと広報することが大切である。専門家でない人がわかる広報、専門家が見てもうなずける広報を充実してほしい。

【議事録抜粋】

やっていることをちゃんと広報するというのも、これから非常に大切かなど。いくら良いことをやっても先にそういうのを広報したらそちらのほうが取り上げられるし、やはり、非常に日本の高専をリードする熊本高専ですので、是非、その気持ちを忘れずにやっていただきたいと思います。

【対応区分】

A

【改善に向けた対応】

教員の研究業績等の公開は、現在、本校ホームページより ReaD&Researchmap（独立行政法人科学技術振興機構）システムへリンクし、ReaD&Researchmap 上で各教員の情報を外部から閲覧することが可能となっています。

しかし、当該システムでの研究業績等の更新が不十分であることから、学内の Web サーバ上に各教員の個人ホームページを構築し、研究業績等を外部から簡便に閲覧できるようにするための検討に着手したところです。

また、教員の顕著な業績や地域貢献については、本校ホームページの Topics 等で積極的に公開しています。

No.6

【提言等事項】

「提言：中学校との連携を推進」

中学校と連携して中学生に魅力的な高専を伝えるようにする工夫が必要である。

【議事録抜粋】

中学生から考えてみると高専というのは、非常に魅力的なところだと思うんですね。入学したいという気持ちがあってもなかなか合格できないというのがあります。そういう高専の良さというか、目標みたいなのをきちんと中学生に伝えていくと、そういうことで中学生が進路選択する場合に高専を選んでいくんじゃないかなと思っています。そういう部分で、中学校との連携をとりながら、高専に進みたいという子どもたちを増やしていく必要があるんじゃないかなと思っています。

【対応区分】

A

【改善に向けた対応】

中学生に対して高専の良さ（魅力）を伝える手段としては、本校教員による熊本県内外への中学校訪問（中学校進路指導担当教諭対象）、中学校主催の高校説明会出席（中学生、保護者、教諭対象）、中学校教員対象の入試説明会、人吉・出水・天草・八代・熊本・福岡での地区別説明会（中学生、保護者対象）、学外主催の学校説明会（中学生、保護者対象）などを利用しています。

また、オープンキャンパスや公開講座、工作教室、科学イベントなどを開催したり、小中学校の理科部会とも連携して、出前授業や高専での実験などの連携理科授業を実施し、小中学生に直接高専をPRし、さらに、熊本県中学校教育研究会技術・家庭科部会と、中学校プログラミングコンテスト及び中学校ロボットコンテストの開催・運営協力による連携を進めています。

中学校と連携しながら以上の様々な機会を利用して高専をアピールしていますが、更に進めて、直接高専の情報を中学生に届ける工夫を検討しています。

No. 7

【提言等事項】

「提言：学力不振の学生への対応」

学力不振の学生が自ら学びたいというマインドを高めるべきである。

【議事録抜粋】

学力不振、あるいは学力はあるけれどもリーダーシップが足りない子が増えているというような話がありました。これをどのようにして克服するかという話が聞かれなかったような気がします。八代キャンパスは、資料にもありますが、合宿を含めてより具体的に取り組まれているという印象ですが、熊本キャンパスの取り組みは今ひとつ分かりませんでした。

僕が言いたいことは、マインドというのは、人間力だと思うんですよ。だから、先ほど先生が熱っぽくおっしゃったけど、色々ずっと物凄い「るつぼ」エネルギーとおっしゃっているけど、さっきのピラミッドがありましたように、あれが人間力だと思うんですよね。だから、ここに高らかにここに書いてあるのがどうもさっきから違和感を感じた、ずっとその教育はどうされているのか……。

【対応区分】

A

【改善に向けた対応】

現在、両キャンパスの教育改善プロジェクトWGでは、課題等を整理し、アクションプランの策定に向けて、素案を作成しているところです。

また、一部、入学者向けパンフレットの作成など、学生の学ぶ意識の向上に向けた取り組みを始めています。

6. 平成25年度運営諮問会議でのご意見等の要旨

○今回のテーマ「人間力を養うアクションプラン」に対する委員のご意見

【委員のご意見】

「人間力を養うアクションプラン」の実行方針、スケジュール（誰が・いつまでに・どういうことをやるのか）や主体的に対応する方法等を明確にして、進め方をイメージする必要があるのではないか？

（熊本高専の回答：齊藤副校長）

今のところ、熊本キャンパスでは出来ることから取り組んでいる状況である。八代キャンパスでは今年度中にアクションプランの原案を策定し、キャンパス内の共有化を図った後、来年度から実施したいと考えている。実際に実行するにあたっては、予算の問題や規則等の改正等が必要な部分もあるかもしれないので、対応する委員会等でプランの内容等確認しないといけないと考えている。

【委員のご意見】

「人間力を養うアクションプラン」を主体的に実行しているのはどこになるのか？

（熊本高専の回答：松田教育改善プロジェクトワーキング座長）

熊本キャンパスでは、人間力とは具体的にどういうことか、授業にどのように反映させるのかを教育改善プロジェクトワーキングで検討し、1年生でも理解できるよう、噛み砕いた原案を作成した。このように方策を検討するのがワーキングであり、方策案に従い実行するのは、各学科や委員会等である。

【委員のご意見】

学校側の押しつけでなく、学生側も意見を出せるような環境になっているのか？ 学生の意見も反映させつつ、時間軸での行動計画を、最近よく言われる「見える化」して、全体の流れを整理してはどうか。

（熊本高専の回答：古江教務主事）

熊本キャンパスでは、教員・学生と一緒に学ぶというスタンスで取り組んでおり、具体的には、グローバル化などの対応として、ハウステンボスでのネイティブによる外国語体験研修などを行っており、さらに、ハンセン病の理解ということで、近隣の菊池恵楓園に出向き、患者さんとの交流等も行っている。

【委員のご意見】

人間力を養うことは、現代の技術者にマッチするいいテーマだと思う。熊本高専は、学生に対し教員がマンツーマンで手厚い教育をやっておられ、今後もこの体制は維持していただきたいと思う。「技術者」「技能者」「経営者」この視点での人間力が社会では必要になる。社会に出れば、納期は絶対に守らないといけない、教育の中に「納期」を意図的に設け、どのような困難にあっても納期を守れるタフな人材を養成してもらいたい。

【委員のご意見】

「経営者」という視点での人材育成に何か取り組んでいることはあるか？
(熊本高専の回答：長谷川校長)

育成する人材像の幅を広くする必要があると思っている。その一つとして「経営者」という視点も意識していきたい。また、技術者の前に人間としての能力を高める意味で、本や新聞など活字を読むことを勧めたいと考えている。納期という点では、ロボコンなどの各種コンテストは厳しい納期（完成期日）があり、教育上有益になっていると思われる。

(熊本高専の回答：下塩副校長)

実験等のレポート作成も、納期を守る力を身に付ける方法である。経営面の視点での教育という点では、専攻科において「起業化と社会」という科目を設けており、今後さらに強化していきたいと考えている。

【委員のご意見】

アクションプランの共有化が大事なことであり、課題であると思う。少し気になるのは、教員と学生の距離が高校と比較すると遠い（離れている）ような気がするので、教員だけでなく学生への共有化も課題だと感じている。

(熊本高専の回答：齊藤副校長)

八代キャンパスでは、WGで策定したアクションプラン案を、教員会等において学校全体で検討しており、共有化していくには、このような会議を通じて議論するしかないと考えている。あらゆる会議等の場面で、実行するための課題の整理等、意思統一を図っていく努力をしたい。

【委員のご意見】

多様化する学生への対応として、色々なプランを提供することも必要であるが、高等教育機関としての学校の在り方、最も基礎となることを見つめ直していただきたい。

(熊本高専の回答：湊田教務主事)

本校の教育の在り方として補足すると、熊本高専が育成する人材像に基づき、学習教育目標を設定しており、どのレベルまで目標の達成を求めていくのか、そのために何を教育するのか、こういうことを検討しているところである。

【委員のご意見】

高専は5年間という長いスパンの中で、高校教育から大学教育までを行うという特殊な部分がある。学生との距離感も含め、高専の特色に対応した細かな仕組みが必要なのではないか。

【委員のご意見】

親も子も昔とは変化してきており、家庭環境の違いで人間力も違ってくると思う。熊本高専がアクションプランを策定し、色々な個性を持つ学生に対応しながら取り組んでいかれることが、優秀な人材を育成しているという評価につながっていくのではないか。

【委員のご意見】

今の学生は多様性に対する免疫がない。多様性を理解することが自律性を養うことにつながるのではないか。高専には、高校からの編入生もいて、外国からの留学生も受け入れているので、多様性を感じる機会はあるが、さらに、計画的な出前授業などの活用や、大学・工業高校との交流などで、多様性を理解する幅を広げてはどうか。しかし、一方では学生は勉強ばかりでなく息抜きも必要かなと思う。

【委員のご意見】

大学生と比較して高専生は英語力が落ちるということであるが、技術英語という部分だけでなく、多様性を考慮すると、外国人教師を採用するなど日常的に英語を身に付けさせる教育なども検討してはどうか。

【委員のご意見】

英語力という点では、小学校に英語教科を設ける動きがあり、高校も英語で授業するようになっている。今後、グローバル化が進んでいき、英語の学習が小学校段階から取り入れられ、中学から高校と段階的に英語を学んでいくことを考えれば、高校生が修得する英語力を高専でも確保できるよう、今の段階から、英語力の格差が生じないように取り組んでいく必要があると思われる。

【委員のご意見】

目に見える成果を出すことが学生にとっては幸せに感じるものである。例えば、国家資格を取得させることが、目標になり勉強に励むきっかけとなり、自分の自信になるものである。こういった経験が、就職後の仕事上の試練において、それを乗り越えていく力になると思う。

(熊本高専の回答：西山自己点検評価委員長)

情報通信エレクトロニクス工学科では、ステップを高くせず、簡単な資格から徐々に取得させるよう指導している。下級生から上級生になっていくまで、段階的にレベルを上げていくことで、学生には自信と力が身に付いていくものと思っている。

【委員のご意見】

熊本高専が国家資格の取得などで特色を出すことができれば、一つの強みになるのではないか。

【委員のご意見】

アクションプランの実行において、数値目標の設定も必要ではないか？

例えば、TOEIC を〇〇点とか、国家資格取得率〇〇パーセントなど、数値的な目標がないと、成果を評価できないと思う。達成度を評価して次への改善につなげることが大事である。

○フリートークでの委員のご意見

【委員のご意見】

読書や新聞の活字に触れることなど、ある意味でアナログ的なことも、技術的なことだけでなく感性を磨くという点で、人間力を高めることに有用であると思う。

【委員のご意見】

新聞を活用した教育に NIE 教育というのがあるが、字を読み書きすることで、思考力を高めるという教育効果が期待される。

【委員のご意見】

昨年、熊本高専の卒業生で日輝の社員の方がアフリカで不幸な出来事に遭われたが、縁あってその方の葬儀に参列した際、みなさん、故人をすばらしい人だったと言っておられた。まさに、熊本高専が優秀な人材を育成しているという証であると思う。熊本高専では、教育に様々な工夫をされておられ、これからもアクションプランにより教育の改善に取り組んでいかれると思うが、成果を得た良い教育は残して、ぜひ継続していただきたいと思っている。

【委員のご意見】

熊本高専の卒業生が全国的にとってもレベルの高い仕事をしておられると感じるが、一方で、高専に入学する学生がどれだけ高い志を持っているのか疑問に思う点もある。少子化の問題もある中、入試の倍率も含め、現状はどういう感じなのか？

(熊本高専の回答：湊田、古江教務主事)

入試の倍率は高度化再編時に一時上がったが、現在は 2 倍程度を維持している状況である。少子化の対策として、学生募集室を中心に地域に密着した広報等も力を入れているところである。

【委員のご意見】

発明や意匠登録など、特許に関する面の教育も大事だと思う。閃きイノベーションの取り組みは、人間力育成の教育につなげることができるのか？

(熊本高専の回答：清田地域イノベーションセンター長)

弁理士を招いて教員向けの勉強会を実施している。閃きイノベーションの取り組みとしては、専攻科において、企業から講演者を招き、実際の現場で役立つ技術者教育という位置づけで、多数の学生が取り組んでおり、成果も上がっている。

7. 平成25年度運営諮問会議における提言事項

平成25年度熊本高等専門学校運営諮問会議は、会議での意見等に基づき、以下のとおり提言します。

【提言1】

「人間力を養うアクションプラン」の共有化を図り、実行スケジュール等の明確化及び数値的な目標を設定してもらいたい。

(本提言に関する運営諮問会議での意見抜粋)

- 教員だけでなく、学生にも共有化を図ること。
- アクションプランの主体的対応を含めロードマップを作成すること。
- 数値的な目標には資格取得なども設定し、達成度を評価することで次への改善につなげていくこと。(PDCA)

【提言2】

熊本高専が養成する人材像に「経営者」という視点を取り入れ、人材育成に取り組んでももらいたい。

(本提言に関する運営諮問会議での意見抜粋)

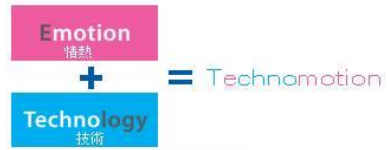
- 「納期(期限)」という要素を意図的に教育に取り込むこと。
- 読書など技術的なものではない教育も思考力を高めるのに有用である。
- 発明や意匠登録など特許関係の教育も大事である。

【提言3】

英語力の向上及び多様性を理解する教育に取り組んでももらいたい。

(本提言に関する運営諮問会議での意見抜粋)

- 日常的に英語を身に付けさせる教育を行うこと。
- 大学や高校との交流、留学生との交流等を通じて、多様性を理解することが自律性を養うことになる。
- 高校では英語による授業も行われており、高校教育と格差が生じないように英語教育に取り組む必要がある。



熊本高専における学生生活指導の現状と人間力を養うためのアクションプラン

2013.11.12



熊本高専の理念

■理念

熊本高等専門学校は、専門分野の知識と技術を有し、技術者としての人間力を備えた、国際的にも通用する実践的・創造的な技術者の育成及び科学技術による地域社会への貢献を使命とする。

熊本高専の育成する人材像

■育成する人材像

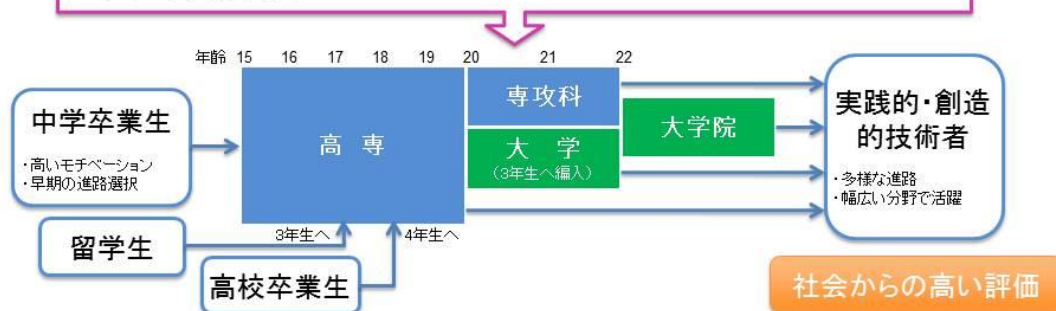
- (1)日本語および英語のコミュニケーション能力を有する技術者
- (2)ICTに関する基本的技術および工学への応用技術を身に付けた技術者
- (3)各分野における技術の基礎となる知識と技能及びその分野の専門技術に関する知識と能力を持ち、複眼的な視点から問題を解決する能力を持った技術者
- (4)知徳体の調和した人間性および社会性・協調性を身に付けた技術者
- (5)広い視野と技術のあり方に対する倫理観を身に付けた技術者
- (6)知的探求心を持ち、主体的、創造的に問題に取り組むことができる技術者

Kumamoto National College of Technology



高専制度の特徴

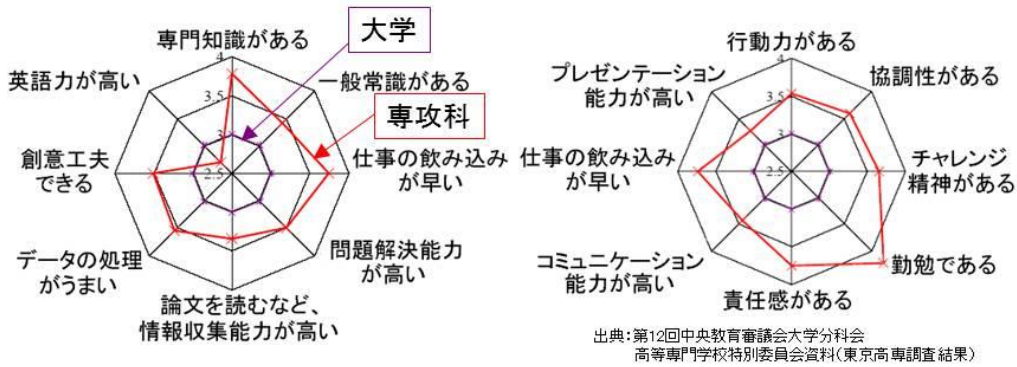
- 濃密な5年間一貫教育(受験勉強を挟まない効率的な技術者教育)
- 2年間の専攻科制度によるより高度な技術者の育成
- 実験・実習、体験を重視したユニークなものづくり教育
- 少人数教育による細やかな学習指導
- クラブ活動・寮生活等を通じた人間教育
- 様々な高専間コンテスト(ロボコン・プロコン・デザコン等)
- 盛んな国際交流



Kumamoto National College of Technology



高専生の評価

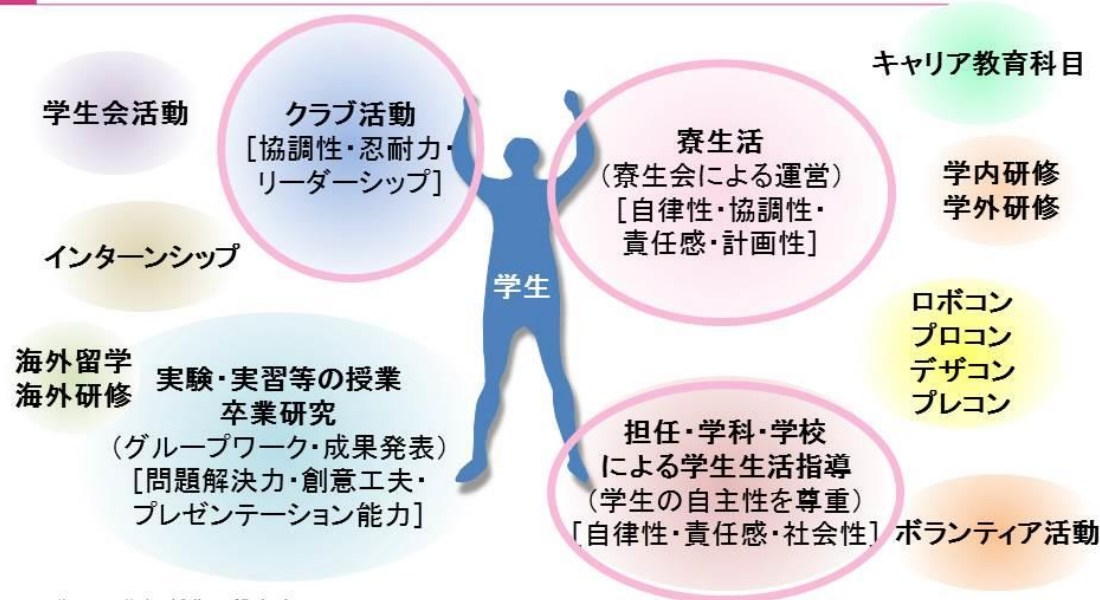


企業アンケートによる専攻科生と大学生の評価比較

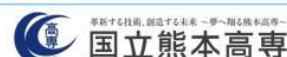
高専生は人間力に関する評価が高い

熊本高専における学生生活指導の現状

人間力を育む環境



Kumamoto National College of Technology



学生生活指導の基本的な考え方

学生の自主性を尊重した生活指導

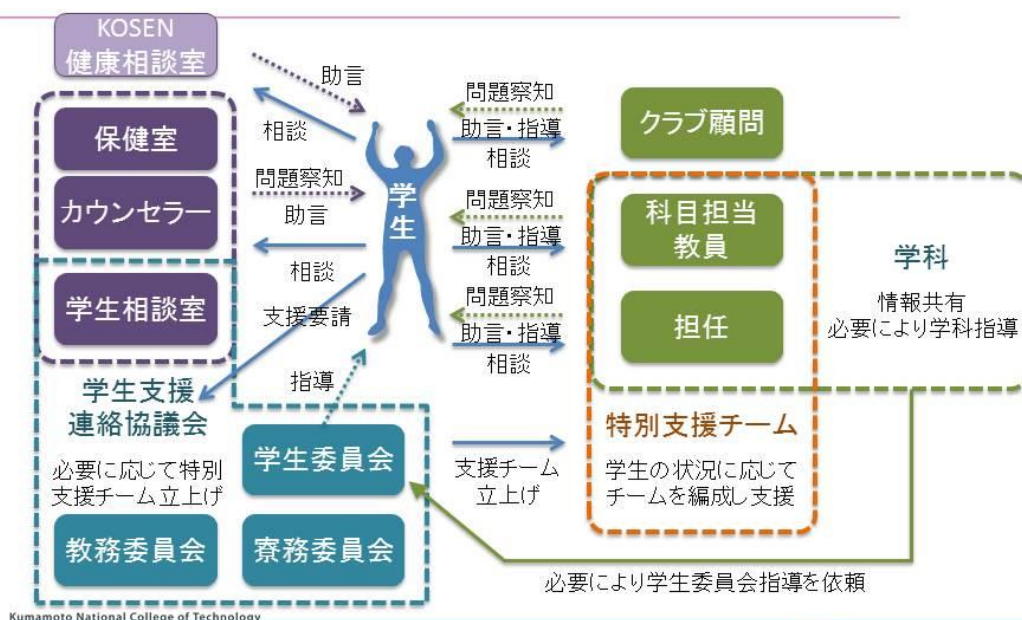
(例)

- 服装・身なりに関しては学則で細かく規定をしていない。学生が自らを見つめ、気づき、改善していくことを重視し、その能力も育成する。
- 学生会活動においては、学生会関係の行事について自ら企画させ、教員は学生会をサポートする側にまわる。
- 課外活動においても、積極的な活動を促し、各種大会、コンテスト等で、顕著な成果を上げた学生に対しては表彰を行い、自主的な活動の意欲を向上させる。

Kumamoto National College of Technology



学生生活指導の学内体制



生活指導関連事項

- **服装身なり**: 3年以下は制服着用、問題がある場合は担任や科目担当教員から指導→学科指導→学生委員会指導
- **携帯電話**: 届出制により持ち込み可能、使用場所・時間については制限あり→違反の場合一定期間没収
- **アルバイト**: 原則禁止だが、やむを得ない事情がある場合は願い出により許可
- **車両通学**: 許可制により50cc以下のバイク通学可能、専攻科生については自動車通学も可能

学生の自主性を尊重した教育方針について、保護者には概ね理解を得ているが、時々「服装身なりについての指導が緩すぎる」等の指摘あり

クラブ活動

熊本キャンパス		八代キャンパス	
運動系(17)	文化・技術系(19)	運動系(18)	文化・技術系(18)
ハンドボール部	吹奏楽部	ハンドボール部	英語研究部
ソフトテニス部	軽音楽部	ソフトテニス部	音楽研究部
弓道部	天文部	弓道部	吹奏楽部
空手部	写真部	空手道部	落語研究部
ラグビー部	電子計算機部	ラグビー部	茶道部
バドミントン部	イラスト研究部	バドミントン部	写真部
テニス部	放送部	テニス部	料理研究部
水泳部	ロボコン部	水泳部	園芸部
サッカー部	茶道部	サッカー部	すうけん
剣道部	思考ゲーム部	剣道部	詞創
柔道部	ピアノ同好会	柔道部	VIC
卓球部	数学同好会	卓球部	ロボコン部
バレーボール部	書道同好会	バレーボール部	ラジコン研究部
バスケットボール部	英語同好会	バスケットボール部	情報システム研究部
野球部	ミステリー同好会	野球部	科学部
陸上部	マーケティング同好会	陸上部	the plastic arts
軟式野球同好会	あかぺら同好会	少林寺拳法部	Traffic Design 研究会
	手芸同好会	フットサル部	CAPPA団
	ラジコン同好会		

平成25年度 九州高専体育大会の 主な結果(全国大会出場種目)

競技名	種目	成績
硬式野球	男子 団体	優勝(八)
バドミントン	男子 団体	2位(熊)
サッカー	男子 団体	2位(八)
陸上	男子 1500m	優勝(八)
	男子 5000m	優勝(八)
柔道	男子 個人60kg以下級	2位(八)
	男子 個人73kg以下級	2位(熊)
卓球	女子 シングルス	2位(八)
	女子 ダブルス	優勝(八)

競技名	種目	成績
水泳	男子 200m自由形	3位(八)
	男子 400m自由形	2位(八) 3位(八)
	男子 800m自由形	2位(八)
	男子 100m平泳ぎ	3位(八)
	男子 200m平泳ぎ	3位(八)
	男子 100m 背泳ぎ	2位(熊)
	男子 100m バタフライ	2位(熊)
	男子 200m バタフライ	優勝(熊) 2位(八)
	男子 200m個人メドレー	2位(八)
	男子 400mリレー	2位(八)
	男子 400mメドレーリレー	3位(八)
	女子 100m 自由形	優勝(熊)
	女子 100m平泳ぎ	優勝(八)
	女子 50mバタフライ	2位(八)
	女子 50m 背泳ぎ	2位(熊)
	女子 200mリレー	優勝(八)

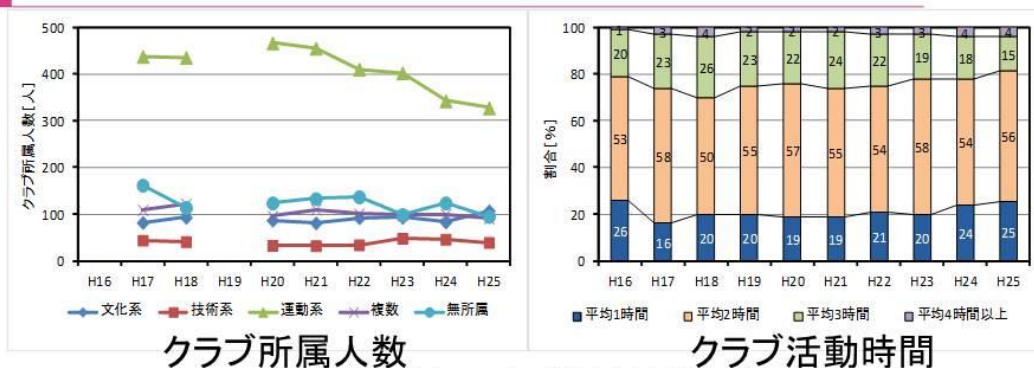
平成25年度 その他の活躍状況

- ・高専ロボコン九州沖縄地区大会で熊本キャンパスAチームが優勝
- ・九州一周駅伝の熊本県選抜メンバーに5年機械電気工学科の穴井晃太君が出走
- ・第46回九州沖縄地区国立高等専門学校英語弁論大会(プレコン)で生物化学システム工学科 3年柳森虹保君が優勝、制御情報システム工学科3年の重信亮太君が審査員特別賞を受賞
- ・九州高校新人陸上熊本県予選の棒高跳で1年生物化学システム工学科の福村光流が3位に入賞
- ・第31回日本ロボット学会学術講演会で5年情報電子工学科の窪田一平君が優秀講演特別賞を受賞
- ・Japan Steel Bridge Competition 2013で5年土木建築工学科チームが構造部門で優勝、総合部門で準優勝を受賞
- ・日本機械学会主催の「機械の日・機械週間」の絵画コンテストで1年制御情報システム工学科の北口裕也君が優秀賞を受賞
- ・2013年度スーパーコンピューティングコンテスト(通称SuperCon2013)で、八代Cチームが6位入賞

Kumamoto National College of Technology



クラブ活動の現状



出典) 八代キャンパス学生生活実態調査結果

体育系所属人数減少傾向

平均1.98時間、近年やや短縮

現状: 受験等挟まないため、5年間を通してのびのびと活動
 課題: 教員は実技指導困難、研究活動等への時間的制約

Kumamoto National College of Technology



寮生指導の基本的な考え方

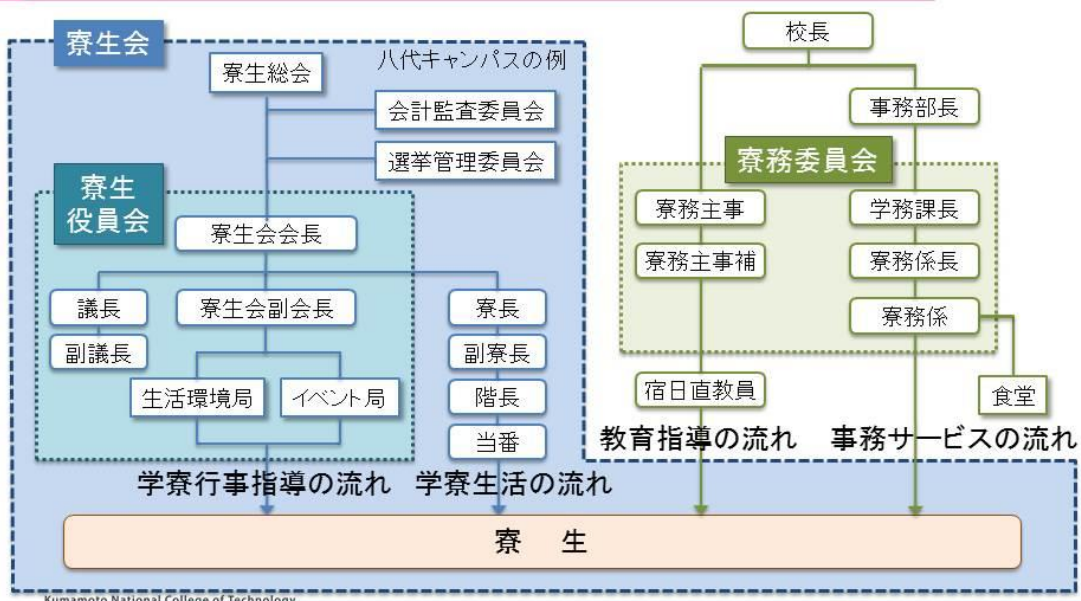
勉学するための生活の場
(学習習慣の確立等)

共同生活を通じて人間形成する場
(コミュニケーション能力やストレスコントロール能力等の
人間力の形成・涵養等)

を提供し、高専教育の目標の達成を目的として設置された

教育寮

寮の指導体制

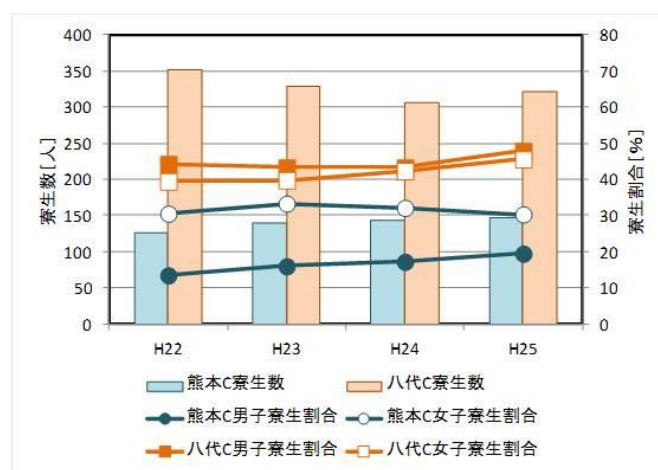


寮の日課

日課	平日	休日	
	月曜日～金曜日	土曜日	日曜・祝祭日等
起床・点呼	7:30	8:00	
朝食	7:30～8:20	8:00～9:00	
登校	8:30までに登校する		
昼食	12:20～13:00	12:00～13:00	
下校	14:50～		
夕食	18:00～19:30		
入浴	18:00～20:55		
門限・点呼	21:00		
清掃	21:00～21:20		
自習時間	21:20～23:30 (翌日が休日のときは特に定めぬ)	特に定めぬ	21:20～23:30 (翌日が休日のときは特に定めぬ)
就寝準備	23:20～23:40		
消灯	23:40		

(八代キャンパスの場合)

寮生数の推移



熊本C男子寮生、八代C女子寮生は増加傾向

寮におけるキャリア教育の取組

現場の課題：団体生活に馴染めない学生
上級生等の指導に耐えられない学生

寮は、協調性、柔軟性、規律性、ストレスコントロール力など、
社会人として必要とされる力の育成にとって重要な環境

寮務委員(教員)
からのトップダウン
による指導

寮生会活動を通じて、寮生全
員と問題点を共有しながら課
題解決のプロセスを実践

寮生会の育成⇒寮生全体のキャリア育成

テーマ：「寮をよくしていくには？」

Kumamoto National College of Technology



寮におけるキャリア教育の取組

寮生会
「他の寮と比較し、良い
ところを取り込み、悪い
ところを改善したい。」

支援

寮務委員会

- ・寮生会役員に対する講演会の実施
- ・他高専の寮見学の機会提供

■課題設定・・・「掃除の徹底」

■具体的方策

- ①朝点呼後の清掃を夕点呼後に実施
- ②朝の起床時刻及び朝点呼を30分遅く設定

■評価結果

- ①掃除徹底の状況 ⇒ 昨年度と比較して、格段に綺麗
- ②朝寝坊の回数比較 ⇒ 減少
- ③朝食欠食回数の比較 ⇒ 減少

Kumamoto National College of Technology





人間力を養うための 新たなアクションプラン

Kumamoto National College of Technology



教育改善に向けた取り組み

両キャンパスに教育改善プロジェクトWGが発足(H23年度)

背景: 学生は本当に力をつけているか? (社会・教育の変化)

目的: 理念・教育目標に沿った人材の育成

内容: 現状の問題点の把握

→ 要因の分析

→ 課題設定

→ アクションプランの策定

→ 学校全体としての教育改善の取り組み

Kumamoto National College of Technology

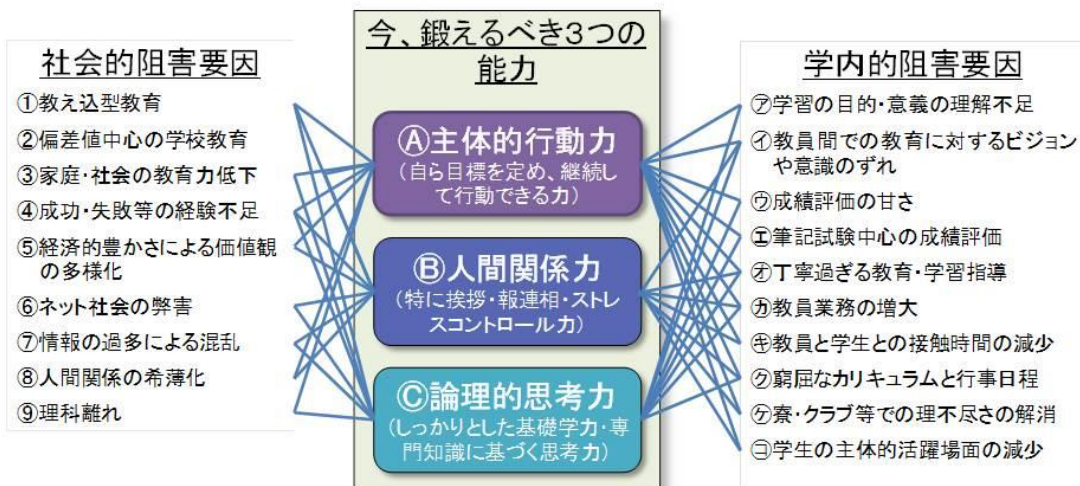


理念等に対する 学生の現状(八代WG整理)

理念等に照らして、現状の学生に足りない能力・特に今鍛えるべき能力を整理

- ① 主体的に学び、行動しようとする意思・意欲が低下している。
- ② 能力の向上や様々な問題への対応に必要な集中力、持続力、忍耐力の低下が見られる。
- ③ 挨拶・報連相など基礎的なコミュニケーション能力の低下が見られる。
- ④ 寮・課外活動を含めて、面倒な人間関係から距離を置く学生が増え、チームワークやリーダーシップ、ストレスコントロール力等の人間関係力が低下している。
- ⑤ 基礎知識・基礎学力が未定着で応用力、論理的思考力を発揮できない学生が増えている。
- ⑥ 読解力・文書作成能力などの基礎的日本語力及び英語力が不足している。
- ⑦ 社会や世界を見据え、自分の将来を考えることのできる力(キャリアプランニング力)が低下している。

今、特に鍛えるべき3つの能力と その阻害要因(八代WG整理)



教育改善に向けた課題整理と アクションプラン(八代WG案)

今、鍛えるべき3つの能力

①主体的行動力

(自ら目標を定め、継続して行動できる力)

②人間関係力

(特に挨拶・報連相・ストレスコントロール力)

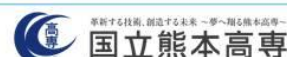
③論理的思考力

(しっかりとした基礎学力・専門知識に基づく思考力)

学生・教職員・保護者
で意識共有

- (1) 教え込み型教育から、アクティブ・ラーニングやPBLによる主体的な学びへの転換
- (2) 評価方法の厳格化・多様化
- (3) 熊本高専で学ぶことの目的・意義を自覚し、立志するための支援を強化
- (4) 学習の成果、人間力向上を自己確認できる仕組みを構築
- (5) 学生の主体的活動への支援強化
- (6) 日本語力・英語力を自主的に向上させる仕組みの構築
- (7) 教育に関する情報収集と研究

Kumamoto National College of Technology



人間力育成に向けた アクションプラン(八代WG案)

(1) 教え込み型教育から、アクティブ・ラーニングやPBLによる 主体的な学びへの転換

- グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングの推進、企業や地域との共同教育、科目間連携を通じた高専型PBLを確立する

※PBL(Project-Based Learning): 従来の教え込み型(座学)ではなく、実社会に現存する問題等に取り組む過程で、専門性やレベルに応じた実践力および総合的な人間力を身につける、自己主導型・自己評価型の小グループ学習

※共同教育: 教育者や研究者だけでなく企業人や地域住民も主体者として参加する教育

(2) 評価方法の厳格化・多様化

- 筆記試験中心の評価だけでなく、口頭試問等の多様な評価方法を導入する

Kumamoto National College of Technology



人間力育成に向けた アクションプラン(八代WG案)

(3)熊本高専で学ぶことの目的・意義を自覚し、立志するための支援を強化

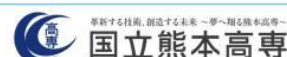
- 高専での学習の目的・意義・方法、挨拶・報連相・掃除等の大切さをまとめた小冊子(熊本Cでは既に作成)を作成、学外講師による講演等を含めた初年度教育を充実し、学生の立志を支援する

(4)学習の成果、人間力向上を自己確認できる仕組みを構築

- EQテストを制度化し、学生の自己理解と人間力向上及び教員による適切な教育指導に役立てる
- 「学習等記録簿」をWeb化し、自己理解・自己肯定に繋がる材料(EQ、TOEIC、クラブ、資格、頑張ったこと・力をつけたこと等)を中心に記録し、併せて成長過程や学習成果をセルフチェックできるシステムを構築する

※EQ(Emotional Intelligence): 知的能力を示すIQ(=知能指数)との比較から、「心の知能指数」と表現される。EQが高いと、自らの感情の動きを知り、それをコントロールできることによって、能力を最大限に生かすことができる。

Kumamoto National College of Technology



人間力育成に向けた アクションプラン(八代WG案)

(5)学生の主体的活動への支援強化

- 寮・クラブ等の組織運営、行事・イベント運営、成果発表、後輩指導、地域と連携した活動など学生が自らの個性を活かして主体的に活躍できる場を増やす
- 学生の主体的活動に必要な時間・場所の確保や活動資金の補助等、環境を整備する

【例】

- ・学修単位・集中講義の活用による活動時間の創出
- ・土曜授業の実施による活動時間の創出
- ・入退室管理システムの導入による施設利用の円滑化
- ・学年横断科目・組織の導入による異なる学年の学生との共同作業の経験
- ・学生教育研究支援金の充実等

Kumamoto National College of Technology



人間力育成に向けた アクションプラン(熊本WG実施)

●後期の開始直後に特別時間割〔9月24日～27日〕を編成

目的:社会性・協調性を身につけた豊かな人間性の育成とグローバル化に対応できる人材の育成
内容:通常の授業では習得できない国際・異文化理解や知的財産、技術英語などの講義のほか、様々な研修、講演会を実施

主なプログラム

- 5年生:弁理士を講師とした知的財産に関する講演会(全員向け)、知的財産に関する特別講義(ゼミナール単位、最大40名程度)、卒研、補講
- 4年生:技術英語の講義を実施(「技術英語」(1単位))
- 3年生:国際・異文化理解をテーマに国内外から講師を招聘し、主に東南アジアの国際事情・文化について講義を実施(「国際・異文化理解」(1単位))
- 2年生:人権教育(ハンセン病についての事前研修と恵楓園見学)、技術研修(新幹線車両基地見学)、自己理解講座、卒業生による講演、電波祭イベントについての説明会、学習発表会(特別活動としてカウント)
- 1年生:企業のトップを招いての講演、工場見学、親睦を深めるためのクラスマッチ、HR(面談を含む)、補習、電波祭の説明会(特別活動としてカウント)

[参考資料]

人間力等の定義

●人間力(内閣府 人間力戦略研究会で定義)

知的能力的要素(基礎学力、専門的な知識・ノウハウ、継続力、論理的思考力、創造力)、社会・対人関係力的要素(コミュニケーションスキル、リーダーシップ、公共心、規範意識、他者を尊重し切磋琢磨しながらお互いを高め合う力)、自己制御的要素(意欲、忍耐力、自分らしい生き方や成功を追求する力)

●社会人基礎力(経済産業省 社会人基礎力に関する研究会で定義)

前に踏み出す力(主体性、働きかけ力、実行力)、考え抜く力(課題発見力、計画力、想像力)、チームで働く力(発進力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力)

●社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力(文部科学省 中央教育審議会 キャリア教育・職業教育特別部会で定義)

基礎的・基本的な知識・技能、専門的な知識・技能、勤労観・職業観等の価値観、意欲・態度、創造力、論理的思考力、基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)